



第35号

題字 佐田一郎

発行 / 前橋商工会議所青年部 (緑水会) 前橋市日吉町一丁目8番1号 編集 / 青年部総務広報委員会

代表幹事の一年を振り返って



前橋商工会議所青年部

代表幹事 羽鳥 巨

本年度は二十世紀最後である二〇〇〇年ミレニアムに始まり、二十一世紀最初の年を迎えるという大きな節目に当たる事業年度でしたが、茎の節目のように大きく変化した激動の一年でした。

この一年を二つの言葉で表現すると『二十世紀の総まとめ』と『二十一世紀への足掛かり』になると思います。

まず、『二十世紀の総まとめ』としては、過去十八回に亘り青年部が主管団体として開催してきたチャレンジオプトネ大会の見直しを行い中止の決定をさせて戴きました。

また、ローズクイーンコンテストに関し、我々青年部が主催団体として今後とも開催して行く方向を明確にさせて戴きました。

これら事業の是非を巡り、我々は、臨時役員会等を開き多くの議論を行う中で、青年部創立二十三年という貴重な伝統の重さ・若い新しい発想から生まれる斬新な新たな創造・親会である前橋商工

会議所の実動団体としての使命、という三つの要素を『二十世紀の総まとめ』として再認識させて戴きました。

さらに、『二十一世紀への足掛かり』としては、青年部H・Pの作成・海外視察における台湾商工会議所との経済討論会・上州空つ風風揚げ大会の風揚げコンテストの開催等、新たな試みを行いました。

また、前橋まつり終了後、新たに「前橋まつり検討委員会」を作り、複数の祭り参加団体から意見を聞く機会を設け、この中から出された「みこし保存会のよなな組織作りの必要性・自主警備の必要性」等の意見を契機にした、まつり参加団体による話し合い開始の動き等二十一世紀の前橋まつりに向けて一石を投じることが出来ました。最後に、この激動の一年間を支えて戴きました青年部会員各位に感謝するとともに、今後とも「我が緑水会は永遠に不滅である」と確信しております。

副幹事の一年を振り返って



副幹事

星野 哲也

西暦二〇〇〇年という節目に羽鳥代表幹事の指導のもと、副幹事の大役を果たせたことに理事並びに全ての会員の皆様から心からお礼を申し上げます。

平成十二年度は、チャレンジ・オプトネの中止や前橋まつりの抜本的な見直し検討等で大きな変革があり、事業の目的や内容が問われた事業年度になったと思います。継続事業の多い中で、事業再検討は、大変な労力を必要とし、小さな変革も簡単にはできないことを再認識させられました。しかし、社会環境は大きく変化しており、事業の立案から実行までのプロセスを見直す時期にきていると強く感じます。次年度の執行部に大きな変化への行動と新たな伝統を築き上げることを期待します。

委員会は会員交流委員会を担当させていただきましたが、茂木委員長の補佐役としては、反省することもありましたが、委員会運営は委員長の個性を尊重できたと思います。今年度入会された新人の方々の活躍をお祈りいたします。一年間ありがとうございました。

副幹事の一年を振り返って



副幹事
小曾根 英明

羽鳥代表幹事、都丸直前代表幹事のも
と二年間に渡り副幹事を務めることがで
きましたのも、ひとえに監事・特別理
事・各委員長そして各会員の皆様のおか
げと感謝しております。

本年度は副幹事として、総務委員会と
事業推進委員会を担当させていただきました
ですが、毎年議論になる事ではありませ
が、緑水会の各事業の見直しを今一度考
え直すべきところに来ていると思いま
す。イベントはもとより、各会議におい
ても効率よく行える様、改善すべき点は
多々あると考えます。また緑水会の名前
活動を地域の皆様に理解していただける
様にもっとアピールしていく必要性も感
じました。

各行事を振り返ると、メンバーの活躍
に支えられた一年間であったと実感して
おります。また前橋まつりの事業では、
今年度「大人みこし連絡協議会」も発足
になり、横のつながりができ、参加団体
全体で来年度に向けてより良い体制がで
きたことは特筆すべき事と思います。

今年一年間会員皆様、事務局に感謝申
し上げます。

副幹事の一年を振り返って



副幹事
嶋田 大和

今年度、羽鳥代表幹事より副幹事を仰
せつかつて、はや一年が終わろうとして
おります。この一年間、会員の皆様にと
つて緑水会は如何でしたでしょうか。私
は、副幹事という役割・立場にいささか
戸惑いを感じながら、活動をしてまいり
ました。緑水会という長い歴史とその幅
広く奥深い活動内容に、初めて接して知
識の浅さを知りました。緑水会活動を本
業としているわけではありませんが、十
一年間ちよつと在籍していて、理解が不
十分だったと感じました。その事業が
まった経緯や運営資金、市役所・親会を
はじめ、他団体・組織とのつながりなど、
私だけではなく会員皆様でも知らない事
が数多くあるうと思えます。そのため
も、是非、情報・データ・事務的知識を
持っている事務局とのコミュニケーション
を今後もさらに充実させて、緑水会活
動を楽しく自分のため、会社経営のため
地域社会貢献の場としましょう。内容が
わかると参加・活動がしやすいもので
す。

最後に、会員の皆様、この一年間ご協
力ありがとうございました。

委員長を振り返って



総務広報委員長
長谷 浩克

月並みな表現ですが、無事夢中で一年
が過ぎたというのが実感です。総務広報
委員長を経験し、やつと緑水会活動の全
体像がつかめたというのは、たぶん私が
初めてではないかと思えます。そんな私
を委員長に指名した羽鳥代表をはじめと
する執行部の皆様の勇氣に敬意を表して
おります。などと冗談はともかくとして、
一年を振り返って思うことは、多くの
人に支えられ、何とか任期を勤めあげる
ことができたということです。総務広報
委員長として、知識不足、認識不足、情
報不足の私は、委員長の任にあるものが
当然知っているべきことも、他のメンバ
ーからのアドバイスにより初めて知ると
いうことも多々ありました。このような
私をサポートしてくれた委員会のメンバ
ーには感謝感謝の一言です。

また、この一年間は自分自身にとって
緑水会の存在感を再認識できる、とても
良い機会を与えてくれました。「本市商
工業の発展に寄与することを目的とす
る。」と規約に謳ってありますが、過去
には、決められた事項をこなすのみで、
目的意識を持っていませんでした。しか

し、この一年は一步すすんだ形で、物事
に取り組むことができました。商工業の
発展に寄与するなど大袈裟なことでは
ありませんが、今後も少しでも地域社会
に貢献できればと考えております。

会員交流委員長として



会員交流委員長
茂木 克之

会員の親睦・相互の交流の架け橋にな
れたのだろうか？ 今後の緑水会の中心
になる新入会員の方は、緑水会に魅力を
感じて貰えたのだろうか？ この世情を
考えると異業種間の交流を通じて各企業
の新しい方向を見つけ連携をとる時期な
ので、出来るだけ多くの方と知り合い、
仲間となりお互いに発展する努力をしな
ければならないと考えていましたが、努
力不足のままに一年を過ぎてしまい悔や
んでいます。

年間の計画事業をこなしていく事も大
事なことですが、個々の共通すると
ころで互いを理解し各々の企業に活かし
更に発展する事が地域社会の活性化に通
じていくと思えます。自分自身を見つ
め直し磨き上げ、相手を良く理解して良
き友としてまたライバルとしてより正確
な先の情報をつかみ、その企業が着実に
前進して行く努力をしていかなければ

らない事は言うまでもないでしょう。先行き不安な現実を身を置いてみると「今」が真剣にならざるを得ない事もありなかなかこの先を考えられぬ状態になつてしまひ勝ちなのは私だけかもしれませぬ。

ですがいつも現実的な楽観主義のようにな前を見据えて挑戦していけるのは我々でしょう。我々の結集した力はどんな事にも打ち勝てるでしょう。それが「緑水会」かと思つていますが、更なる飛躍を次の委員長にお願いいたします。

経営研究委員長としての一年



経営研究委員長
安 達 一 志

今年度、羽鳥代表幹事を始め執行部・会員皆様のお力添えをいただき、この時期を迎えることができました。解らないことばかりで事務局にもご迷惑おかけしましたが、先月最後の事業を終えることができました。

都丸直前、羽鳥代表から「青年部ホームページを立ち上げよ」と厳しいプレッシャーを頂戴し、メンバー共々右往左往して何とか形にするまでになりました。残った課題は内容の充実と維持管理ですが、これは次年度委員長に託したいと思つています。

十一月の委員会には事務局のお計らいで「シンフォニーグッドスタッフ」の庭山社長がおいで下さり、顧客データベースやボスシステムのお話をさせていただきました。貴重な時間を頂戴し感謝申し上げます。

悔いは残りますが、経営研究委員長として素晴らしい経験をさせて頂きました。頼りない委員長でしたが、協力してくれた委員会のメンバーに感謝申し上げます。

地域開発委員長として



地域開発委員長
原 澤 康 隆

平成十二年度、地域開発委員長として一年間の事業を無事に終了させて頂きました。羽鳥代表幹事、嶋田副幹事のもと、事業にご協力を頂いた委員会の方々のはじめとする会員の方々に御礼申し上げます。

本年度の地域開発委員会は、商工会議所が中心となつて進める「TMO」を受け、「街づくり」をテーマとして進めてきました。

春の講師例会では、「TMO」の実行部隊であるNPO「コムネットQ」の方々をお招きして、前橋の中心市街地の活性化についてお聞きするとともに意見

を交換いたしました。講師は、前橋の街で活性化のために働こうとしている方々でした。その方々の意見をお聞きできたことは意義があったと思つています。

秋の地域振興例会に於いては、昨年より「前橋街づくり協議会」が中心となつて実施している広瀬川イルミネーションに、今年も協賛イベントとしてコンサートを企画いたしました。出演バンドの選定では、20年以上のキャリアのある群馬県在住のジャズバンド「モニユメントハウス」さんに、出演して頂くことができました。当初、十一月中旬には実施できるともりて進めてきましたが、イルミネーションや他の事業の関係もあつて十二月二日に実施することになりました。

広瀬川の橋の上で寒い中、演奏して頂いたバンドの方々、出店して下さいの方々、聴きにに来て頂いた市民の方々、そして会員と当委員会の方々に御礼を申し上げます。バンドの方々は指が動かないのは勿論のこと、管楽器や弦楽器の音程が狂つてしまつたなど大変だつたとお聞きしております。そんな中で、素晴らしい演奏をして頂きました。寒い中、大勢の市民の方々も来て、最後までコンサートを聴いて頂きました。

本年度、地域開発委員会を担当し、無事に地域振興例会を開催、また講師例会やクリーン前橋を実施できたのも当委員会並びに会員皆様のご協力のおかげです。一年間委員会に出席しご協力頂いた

委員会の方々に感謝いたします。

この一年



事業推進委員長
小 野 昌 人

「成功をかぞえたら、片手でさえ余る。失敗をかぞえたら、両手でも足りない。」

この言葉通りの一年間でした。思えば昨年一月の委員長に承認された時、私にはたつぷりの情熱とやる気が満ち溢れていました。しかし、四月のスタートの時点で私の未熟さから対応ができなくなり、私の自信は脆くも崩れ去つてしまいました。酒量も増え、眠れない日々もあり、途中で逃げ出したいと思つた事もありました。そんなとき、助けてくれたのが家族であり青年部の皆様でした。特にご迷惑をお掛けした執行部の皆様は勿論のこと、事業推進委員会の皆様は助けた想いでいっぱいでございます。委員会では常に一〇名以上の出席を戴き、議論し励ましながら積極的に活動してくれました。他の委員会の皆様、事務局の金井さん、前橋市商業観光課の皆様にも本当に感謝しております。

最初の四方は首の皮一枚でつながつている状態でしたが、八月以降は少しは余裕を持つて行動できたと思つています。苦しいことばかりでなく、楽しいことや感

激したこともあり、素晴らしい仲間もたくさんできました。
 今後是非、懲りずに応援のほどよろしくお願い致します。なぜならば、来年度の私はスパー委員長として生まれ変わるはずですから。



三月に六名の方が卒業されます。在籍期間十一年のベテランの方もおります。この間、様々な思い出があるかと思ひますので、この紙面でご紹介いたします。

「卒業なされましても緑水会に対するご指導・ご協力をお願い申し上げます。長い間、本当にご苦労様でした。」



星野 哲也

平成八年一月に入会し五年間の在籍でしたが、多くの先輩・同僚・後輩の方々と知り合っことができ、楽しく充実した時を与えていただきました。心から感謝しお礼を申し上げます。

最も思いで深いことは、商青連の仲間と起業したこと。青年経済人として何をすべきか。私は、多くの人と知り合い情報を交換し、自己の見聞を広め本業を活性化することと考えます。成功するかわかりませんが、成功することを目標

にチャレンジすること。青年経済人として意義あることと思ひます。

次に思い出深いことは、仲間と海外視察・全国大会等で飲食や宿泊を共にしたこと。今しかできないパワフルで破壊的な行動は、ストレス解消になり本業への意欲向上につながりました。

さて、学んだことは、市の多くの事業がボランティアによる奉仕活動に支えられていることを知ったことでした。社会貢献の在り方を知り、前橋市民としての意識が大変高まり、社会奉仕活動への意欲が初めて芽生えました。

最後に、会議所の職員の方々へのお礼と緑水会皆様の益々のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。大変ありがとうございました。今後もしよろしくお祈り申し上げます。



大澤 宏美

「graduate ion」今この時を迎え新たな未来に向け飛躍を求めて旅立ちとうしている私達です。

商工業に携わる私達にとって苦難の道である二十一世紀、代々受け継いで来たものを守る事の厳しき、新たな展開を必要としながら伸び悩んで来ています。空き店舗が目立つ中心商業地域を、もう一度活性化された前橋に、若き経営

者に課せられた課題ととらえ、こんな時こそ異業種の集まりである緑水会の力が問われるのではないだろうか。緑水会での情報交換、提携、個々が守る態勢から一歩進んで一つ一つの力を束ねる事で新たな発展を見る事が出来るのではないだろうか。先輩達の残していった経験・知恵・業績を私達がアイデアと行動力でつなぐ事が出来たら、さらにインターネットを操る柔軟な頭脳を持つ若き後輩達

の力を得る事によって商工会議所前橋の商業は著しい発展をとげる事となるでしょう。決して夢ではなく、今夢で終わらせてはならない事を実感しています。更なる発展のために私達から後輩達へ大きな期待をしています。

最後に、緑水会の益々の発展と会員の皆様のこれからの活躍を祈念しまして、卒業の挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。

最後に、緑水会の益々の発展と会員の皆様のこれからの活躍を祈念しまして、卒業の挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。



後藤 尚利

商工会議所青年部に入会して十年の間、多くの人のちとの委員会・例会などの付き合いの中で、色々な話を伺い、そして学ぶことができました。

また、年間の花火大会や前橋まつりの警備では、集まった人たちに少し苦勞をしましたが、今では貴重な体験だったの

だと思ひます。
 会議所青年部に参加して体験することで、たくさんの友人ができたことに感謝いたします。



須 永康 弘

早いもので、卒業の時が来てしまいました。入会して三年九月の間、いろいろな方々に出会い、今までにない素晴らしい経験をさせていただきました。卒業しても、緑水会での経験を生かして行きたいと考えております。

これからの緑水会の益々のご発展を願っております。大変お世話になりました。ありがとうございました。



伊藤 佳明

お世話になりました。



渡邊 俊介

お世話になりました。